

2024年6月10日  
日本船主協会企画部広報室

海運の重要性を大学生に説明  
～川崎市にて海事施設の見学会を開催～

当協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、教育関係者に対し商船をはじめとする海事施設等の見学会や授業への協力、資料提供等を実施しております。

今般、東洋埠頭の協力を得て、5月2日（木）に中央大学学術連盟経済学会の学生7名と拓殖大学商学部3年生の学生4名および教材制作会社他の約20名を対象に川崎港コンテナターミナルの見学会を開催しましたので、その様子をお知らせします。

【見学会概要】

参加者はまず会議室にて海運に関する説明を受けた後、コンテナターミナルの沿革や、東洋埠頭で行っている通関、ふ頭業務、ターミナル業務、倉庫業務等について、動画も交えて概要の説明を受けました。参加者からは、海運業界で行っている環境対策や、横浜・品川等近隣にも大規模な港湾がある中での川崎港の特徴等について、積極的に質問が出されていました。



質問する参加者



ガントリークレーンを見学

続いて、バスでコンテナターミナル構内を移動し、実際にコンテナが積み上げられている様子や、トランスファークレーンでコンテナを移動させる様子を見学しました。加えて、船が接岸していないタイミングでガントリークレーンを間近から見上げながら、ガントリークレーンの操縦者の役割等について説明を受けました。



リーファーコンテナを移動するリーチスタッカー



コンテナ内部の見学

加えて、コンテナを蔵置するスペースでは、電源が用意されたリーファーコンテナの蔵置スペースを見学した他、コンテナを移動することのできる「リーチスタッカー」が実際にリーファーコンテナを掴み、持ち上げ、移動する実演を見学し、移動後のコンテナ内部も見学しました。参加者は、実際に 20FT コンテナ・40FT コンテナとリーファーコンテナの中に入って、構造の違いについて学びを深めていました。



川崎マリエンから見たコンテナターミナル

川崎港コンテナターミナルの見学後には、「川崎マリエン（川崎市港湾振興会館）」に立ち寄り、展望台から川崎港のコンテナターミナルをはじめ、自動車輸出や資源輸入等のための施設を見学し、経済、暮らしと密接にかかわっている海運・港湾についての理解を深めました。

当協会は引き続き、日々の暮らしを支える海運について広く知っていただくための活動を実施してまいります。